

| 建学の精神  |  | 豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。  |   |      |  |  | 総合評価    |   |
|--|--|--|---|------|--|--|---------|---|
| 教育理念   |  | 建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献でき得る人間育成に努める。学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。  |   |      |  |  |         |   |
| めざす生徒像   |  | 目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる生徒。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする生徒。  |   |      |  |  |         |   |
| 学校教育目標   |  | (1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2) 自ら問いを立て、他者と協働して課題解決に取り組む力を身に付けさせる (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。<br>(4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。 |   |      |  |  |         |   |
| 昨年度の成果と課題  |  | 本年度の教育目標   |   |      | 具体的目標  |  |         |   |
| [成果]<br>・ICT教育の充実<br>・本校教育の魅力の発信<br>[課題]<br>・学習意欲の高揚と自立精神の育成 |  | (1) 自ら考え、何ごとにも積極的に挑戦しようとする態度を育てる。<br>(2) 礼節を重んじ、他を受け入れる誠実で寛容な態度を育てる。   |   |      | ・基礎的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能を確実にしながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。<br>・礼節を重んじ、自らの品性を磨くとともに、他者の生き方・考え方を理解し、互いにより良い社会の構成者として成長しようとする意欲をもたせる。  |  |         | B |
| 分掌・学年  | 評価項目   | 具体的方策  | 評価指標  | 自己評価 | 成果と課題(評価結果の分析)   | 課題の改善方策等   | 学校関係者評価 |   |
| 教務部  | 新学習指導要領に対応できる教育課程の編成<br>コロナ禍における授業時間の確保                                  | ・教育課程検討委員会、主任会議、教科会議等を通じて各教科や分掌の意見を出し合い、前期課程は2021年度より、後期課程は2022年度より新設される各科目の内容を吟味し見通した上で、より適切な教育課程を編成する。<br>・学校行事の見直しや合理化とオンラインによる在宅学習の運用により授業時間の確保を図る。                        | ・教育課程検討委員会、主任会議、教科会議等を通して、新設科目の内容を吟味し、実践方法を検討しながらより適切な教育課程を編成することができたか。<br>・学校行事等の見直しで、臨時休業相当分の授業時間数を確保することができたか。                         | A    | ・各教科主任等と調整を行い、概ね教育課程を編成することができた。また、臨時休業相当分の授業時間数を確保することができた。さらにオンラインによる在宅学習を5月という早い時期から実施することができた。   | ・生徒への課題等の提示方法を工夫することで合理的な授業時間の使い方を検討する。具体的には従来の校内提示に加え、GsuiteのClassroom等を活用して事前に課題等を提示し、授業内容の充実を図る。        | A       |   |
| 進路指導部  | 完全6年制中高一貫教育の特色を活かした進路指導を推進する。<br>大学入試改革に対応するため、具体策を各教科・学年と連携しながら検討・実施する。 | ・個々の生徒に応じた進路指導を学年間で密接に連携を取りながら推進する。<br>・正確な情報の共通理解のため、大学入学共通テスト導入に関わる最新状況について職員研修を実施する。  | ・進路講演会、進路ホームルーム等を通じて、生徒の進路に対する意欲を早期から高め、行事・取組の事後検証を行う。<br>・模擬試験の結果分析から得られた課題を、学年・教科と共有し、連携して克服策を探り、多様な受験方式で国公立大学、難関私立大学への合格者を全体の30%以上にする。 | B    | コロナ禍で感染拡大防止のため、対面による進路講演会は実施できなかったもののオンラインツールを用いて実施することができ進路に対する意識を高めることができた。一方、合格実績に関わって当初目標としていた国公立大学合格者30%は達成することができず25%に留まってしまった。より個々の生徒に対して寄り添い指導していくこと、大学入試に対して早期に意識させていくこと、確かな学力を受験期までにつけさせることが課題となる。 | 模擬試験の結果のみの確認だけでなく、個人面談等を積極的に実施し、各分野ごとの弱点克服策などを生徒に分析させること。大学のオープンキャンパスや説明会など積極的に情報提供し参加を促すことで進路意識を高めさせる。    | A       |   |
| 生徒部  | 生活習慣の確立と規範意識の向上  | ・毎朝の登校指導、中等4年生による週番活動の実施<br>・遅刻カード、入室許可証の活用方法の工夫   | ・登下校時、校門での一礼や自発的に挨拶ができていますか。<br>・不注意による遅刻を減らすことができたか。   | B    | ・校門での一礼は概ねできているが、中には形式的な実施にとどまっている生徒もいる。来客者に対しても積極的に挨拶ができる生徒もいるが、全体的に自ら進んで元気よく挨拶できる生徒が少ない。不注意による遅刻は減少している。   | ・HRや学年集会で校門での一礼の意義や挨拶の大切さを伝える。身だしなみチェック時に整った状態でチェックを受けられるよう事前に各HRのアナウンス・指導を徹底する。                           | A       |   |
| 文化図書部  | コロナ禍における文化活動の安全な実施<br>図書室利用状況の改善   | 新型コロナ感染拡大防止対策を施した上で、文化活動を実施し、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育む。また、図書室の運営については、同様の対策を講じた上で、購入希望図書を募り、生徒により親しみのわく図書室となるように購入図書を選定する。  | 生徒の知的的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことを目的に、社会情勢を鑑みて十分な新型コロナ感染拡大防止対策を施したうえで、文化行事を最低1回以上実施できたか。図書室においては、生徒の希望図書を購入できたか。                                | C    | 文化祭は、リモート中心の運営であり日程も短縮であったが、クラスの団結や意欲的な参加がみられ、充実感を得た生徒も多かった。図書室の利用状況については、はかばかしくなかった。生徒の希望図書も未購入であった。  | 内容に人権配慮が足りない発表がみられたので、事前に生徒・教職員への指導が必要である。また、図書室については、生徒のニーズに合った新刊書を増やすことや探究学習との連携を図り、調べ学習での活用を促進するように努める。 | B       |   |
| 保体美化部  | 心身共に健康な学校生活を送ることができる生徒を育てる   | ・学校管理下での負傷等による保健室来室者数を減少させるために、疾病や怪我の予防法などの情報発信や基礎体力作りに努める。  | ・保健室来室者の外科的主訴が、昨年度12%のうち捻挫や骨折の疑いが、50%をしめているので、25%減にする。そのために、体育授業での十分な準備運動、「ほけんだより」の毎月の発行を実施できたか。  | B    | ・保健室来室の外科的主訴の捻挫や骨折の疑いが、18.46%となった。「ほけんだより」の発行は予定通り実施できた。十分な準備運動は効果があった。  | ・外科的主訴の突指・捻挫は17・26%を占めており、引き続き十分な準備運動を継続する。  | B       |   |
|  | 学校生活を健全かつ豊かにするため、また、学習効果を高めるため、校舎内及び校庭の環境整備に努める。                         | ・毎月1回の「安全点検の日」を活用し、施設・設備、備品の状態などを確認するとともに、清掃道具についても日常的に整備、保守点検を行って学校生活を快適に過ごせるよう適切な環境をつくる。<br>・意欲的に清掃活動に取り組む生徒を育成する。   | ・安全点検による破損箇所を100%行うことができたか。<br>・意欲的に清掃活動に取り組む生徒が昨年度より増えたか。  | B    | ・破損個所の修理についてはできる限り行ったが、100%ではなかった。コロナ禍に伴い手に触れる部分の除菌作業を含め、生徒の大半が校内外の清掃活動や美化運動に積極的に取り組むことができた。   | ・機会を見つけて清掃活動や美化運動、さらにはボランティア清掃の実施意義を話し、自ら進んで活動に参加しようとする生徒の意欲を高める。  | B       |   |
| 入試広報室  | 入学者60名以上を獲得する。   | ・学校イベントの早めの告知、準備、参加者増加の努力<br>・塾等の訪問で本校の先進的な取組を伝える。   | ・入試広報行事、昨年度より参加者の10%増加<br>入試チャレンジ合計130名以上の参加  | B    | 評価指標である入試チャレンジの総参加者は145名と目標を超えているものの、入学生は43名と大幅減となった。コロナ禍による入試広報行事のオンライン開催が、直接学校を訪れる行事と比べてインパクトを残せなかったと思われる。   | 次年度は7月までに少数で学校を訪れる説明会を7回実施し、学校の特色を直接伝えて、これを後半のオープンスクールなどに繋げていく計画を立てている。                                    | B       |   |
| 人権教育委員会  | 人権意識を高め、身のまわりの差別の現実を正しく認識し、課題解決に積極的に取り組む意欲と実践力を育てる。                      | すべての生徒に人権について正しい理解と認識を培うため、年間推進指導計画を立て、これに基づいて、資料や視聴覚教材・人権作文などを活用しながら学習をすすめる。  | 生徒アンケートによる人権ホームルームの取組満足度を80%にする。<br>人権作文集への取組状況を90%以上にする。   | C    | ・コロナ禍に伴い年間推進計画の変更を余儀なくされ、特設の時間を十分に確保することができず、人権ホームルームの満足度を図るアンケートも実施できなかった。ただ、人権作文集への取組は95%に達し、内容もそれぞれがこれまでの学びを活かし人権を守る大切さを訴えるものが多かった。時間的制約があるので、さらに学びを深めるまでに至らなかった点が課題として残った。                               | ・年間教育計画上、特設の時間に多くを割くことは難しい状況であるため、各年度ごとに学ぶべきテーマを明確にし、実施に当たっては入念な準備を行い、限られた時間で学習が効果的に行えるように努める。             | B       |   |
| 渉外委員会  | 育友会の活動を会員(保護者)に広報する  | ・広報誌「聖心広場」の年2回発行<br>・「聖心広場」以外の方法での広報。  | ・広報誌「聖心広場」を年2回発行できたか。<br>・「聖心広場」以外の方法での広報が実施できたか。   | C    | 新型コロナウイルス感染拡大により、育友会活動の大半が実施できず、育友会と会員をつなぐ例年の取り組みができなかったうえ、新たな方法を構築できなかった。   | 育友会活動を、従来のものを踏襲するのか、ニューノーマルに対応した在り方を探るのか、慎重に検討していく必要がある。   | C       |   |